

日本語政策論

第1回 10/19 オリエンテーション

この授業で大事にしていること

①いつか対面で 会釈くらいはできたらいいね

授業の中で、お互いに少しずつでもいいので関係を作り、大学が再開したときには機会があればちょっとでもお互いににっこり会釈ができるようになれるといいですね。 そんな関係を育めますように。

④自分自身の対人関係の方法をみつめよう

グループ活動などでは,自分の対人 関係のあり方を省みてみましょう。 人に抱く感情はそれ自体,いいも, 悪いも,ありません。でもそうした 感情を持つことが,自分や周囲にど ういう影響を与えたり,意味を持 かを考えて学んでみましょう。

⑦「水準」より「方向」を

課題などでは,「達成水準」よりも 「方向性」が重要です。

「どれくらい達成できたら」より、 「どの方向をめざせば」を大事にしましょう。方向性が解っていれば、 水準は自ずとついてくる、また、と きには手も抜ける。方向性が解っていれば、いつか取り戻せます。

②雑談に流れることは「あり」です

グループワークなどをするときも, 雑談に流れてもかまいません。 もし雑談になったら,司会的な役割 だった人も,そうでない人も「どう して私たちのこのディスカッション は雑談に流れたのか」を考えていく といいと思います。

⑤だらだらしても, かまいません

90分すべて集中できなくても,いいです。それがふつうです。

⑧「ときには」顔を見せ合おう

挨拶や対話的なやりとりは,ビデオオン(むろん状況や環境で難しいときがあっていい)を大事にしましょう。 授業で一瞬でも,お互いの顔と声が交わる時間があるのは,大事です。あとは,自由です。南浦の説明の時間などは,声が聞こえていれば,どんな姿勢でも構いません。 もちろんオンにしてくれればうれしいで

もちろんオンにしてくれればうれしいです。でも僕が聴く側だったら,ずっとオンは多分疲れるのも,同じです。

③うまくいかなくて当たり前

遠隔授業という場は、いろいろなトラブルがつきものです。うまくいかなくて当たり前。

教員も学ぶ側も, うまくいかないことの中でコミュニケーションを重ねることの方が, ことばの教育の授業としても, ずっと大事です。

⑥でも、学びたいこと、学びたい人、 どんどん学びましょう

そのために色々な資料や授業記録も teamsで提供します。

どんどん読んで、触れて、授業や課 題の目的や意図の方向性を理解して いきましょう。

⑨たまには声をおかけします

ときどきは,声をかけて発言をお願いします。そのときはどうぞマイクをオンに して,答えてくださいね。

⑩授業前、授業後はどうぞご自由に

雑談タイムにしています。どうぞ何か話 したい人は,ご自由に。

あなたが文部科学大臣なら、どう判断しますか?

大臣! 外国人児童生徒が、現在公教育の学校の中に非常に増加しています。 日本語が全く話せない状態で転入してくる子どももいれば、日本で生まれ育っているけれど、 家庭では両親の言語を用いる子どももおり、必ずしも「全く使えない」わけではない子どもも います。日本語の使用レベルや能力は子どもによってまちまちです。

日本語指導の役割は、最終的には「学校への参加」「この社会への参加」です。そのため、日本語教育に求められるものは……例えばこんなところでしょうか。

- 初期日本語指導(全く話せない子どもがサバイバルできるための入門日本語)
- 日本語の基礎(日本語の基本的な読み書き聞く話す・文法など)
- 教科学習のための日本語(教科に参加し、知的学力を成長させていくこと)
- 進路やキャリア形成の視点
- 保護者との連携 などなど

大臣! こうした状況なのですが、「外国人児童生徒に対する日本語指導」 を誰が担うべきか問題。どう対応いたしましょうか?

A 専門的な日本語教師が学校に関わって行う

B 学校の先生が日本語教育の視点を身につけて補う



あなたが文部科学大臣なら、どう判断しますか?

A 専門的な日本語教師が学 校に関わって行う



私は日本語教育の専門家です。

日本語を外国の人に教える仕事をこれまでも やってきました。どのような外国の人が相手で も、どのような日本語レベルでも教えることが できます。

ただ,私は日本語教師であり,学校教員免許は持っていません。子どもたちの日本語教育のことは関心も持っていましたし,働き口が増えるということからも,学校で働けたらいいなと思います。今の制度では,公教育の学校には,教員免許がなければ教壇に立つことはできませんし。

不安なのは、私も含め多くの日本語教師は日本語教育のプロなのであって、学校のことや他の子どもたちのこと、教科のことについてはあまり知らないことですね。

B 学校の先生が日本語教育 の視点を身につけて補う

私は学校教員です。小と中(国語)の免許を 持っています。

日本語指導が必要な子ども、増えましたね。私 たち学校教員は国語を教えられても、「外国人 に向けて日本語を教える」ことは大学でも学ん だこともないし、手探り状態です。今やっている ことが妥当かどうか、いつも不安です。

ただ,私たちは子どもを育てることのプロです。 うまくいかないことも多いですが,困り事を抱え た子どもたちはたくさんいますし,全体の中で 育てていくことはできていると思います。学力向 上を含めて,教科で知的な力を伸ばしていくこ とは,どんな子にとっても大事ですし。

ただ,学校も働き方改革といわれている中,さらに新しい仕事や視点が増えるのをどう考えるか…そこは心配です。

考える あなたが文部科学大臣なら、どう判断しますか?

大臣! 外国人児童生徒が、現在公教育の学校の中に非常に増加しています。 日本語が全く話せない状態で転入してくる子どももいれば、日本で生まれ育っているけれど、 家庭では両親の言語を用いる子どももおり、必ずしも「全く使えない」わけではない子どもも います。日本語の使用レベルや能力は子どもによってまちまちです。

日本語指導の役割は、最終的には「学校への参加」「この社会への参加」です。そのため、日本語教育に求められるものは……例えばこんなところでしょうか。

- 初期日本語指導(全く話せない子どもがサバイバルできるための入門日本語)
- 日本語の基礎(日本語の基本的な読み書き聞く話す・文法など)
- 教科学習のための日本語(教科に参加し、知的学力を成長させていくこと)
- 進路やキャリア形成の視点
- 保護者との連携 などなど

大臣! こうしたこと状況なのですが、「外国人児童生徒に 対する日本語指導」を誰が担うべきか問題。どう対応いたしましょうか?

A 専門的な日本語教師が学校に関わって行う

B 学校の先生が日本語教育の視点を身<u>につけて補う</u>



A 専門的な日本語教師が学 校に関わって行う

私は日本語教育の専門家です。

日本語を外国の人に教える仕事をこれまでも やってきました。どのような外国の人が相手で も、どのような日本語レベルでも教えることが できます。

ただ,私は日本語教師であり,学校教員免許は持っていません。子どもたちの日本語教育のことは関心も持っていましたし,働き口が増えるということからも,学校で働けたらいいなと思います。今の制度では,公教育の学校には,教員免許がなければ教壇に立つことはできませんし。

不安なのは、私も含め多くの日本語教師は日本語教育のプロなのであって、学校のことや他の子どもたちのこと、教科のことについてはあまり知らないことですね。

B 学校の先生が日本語教育 の視点を身につけて補う

私は学校教員です。小と中(国語)の免許を 持っています。

日本語指導が必要な子ども、増えましたね。私たち学校教員は国語を教えられても、「外国人に向けて日本語を教える」ことは大学でも学んだこともないし、手探り状態です。今やっていることが妥当かどうか、いつも不安です。

ただ、私たちは子どもを育てることのプロです。 うまくいかないことも多いですが、困り事を抱え た子どもたちはたくさんいますし、全体の中で 育てていくことはできていると思います。学力向 上を含めて、教科で知的な力を伸ばしていくこ とは、どんな子にとっても大事ですし。

ただ, 学校も働き方改革といわれている中, さらに新しい仕事や視点が増えるのをどう考えるか…そこは心配です。

大臣としての判断ポイント

①**子どもたちの日本語はどうあるべきなのか?** あなたは子どもたちにどんな日本語の力が身につ

くことが大事だと思っているだろうか?

- →それによってA案B案の判断に違いはでるだろうか?
- ②子どもたちへの日本語指導者の専門性とは? あなたは「子どもたちへの日本語指導」を行う教 師の専門性とは何だと考えただろうか?
- →それによってA案B案の判断に違いはでるだろうか?
- ③**教師の「働くこと・仕事」をどう考えるか?** あなたは教師の「働き口」や「働き方」をどう考 えているだろうか?
- →それによってA案B案の判断に違いはでるだろうか?

活動の進め方

- ①~③のどこから考えてもOK
- 1. |人で考え, ノートやメモ帳などに書く(10分)
- 2. グループで考える(15分)
 - -それぞれA案・B案どちらと思ったか、交換する
 - -A案・B案の判断にあたってどんな「難しさ(葛藤や論点)」があるのかを見つけ出す

「子どもたちへの日本語指導の専門家像」をめぐる論点争点

A 専門的な日本語教師が学校に関わって行う

私は日本語教育の専門家です。

日本語を外国の人に教える仕事をこれまでも やってきました。どのような外国の人が相手で も、どのような日本語レベルでも教えることが できます。

ただ,私は日本語教師であり,学校教員免許は持っていません。子どもたちの日本語教育のことは関心も持っていましたし,働き口が増えるということからも,学校で働けたらいいなと思います。今の制度では,公教育の学校には,教員免許がなければ教壇に立つことはできませんし。

不安なのは、私も含め多くの日本語教師は日本語教育のプロなのであって、学校のことや他の子どもたちのこと、教科のことについてはあまり知らないことですね。

B 学校の先生が日本語教育 の視点を身につけて補う

私は学校教員です。小と中(国語)の免許を 持っています。

日本語指導が必要な子ども、増えましたね。私たち学校教員は国語を教えられても、「外国人に向けて日本語を教える」ことは大学でも学んだこともないし、手探り状態です。今やっていることが妥当かどうか、いつも不安です。

ただ、私たちは子どもを育てることのプロです。 うまくいかないことも多いですが、困り事を抱え た子どもたちはたくさんいますし、全体の中で 育てていくことはできていると思います。学力向 上を含めて、教科で知的な力を伸ばしていくこ とは、どんな子にとっても大事ですし。

ただ,学校も働き方改革といわれている中,さらに新しい仕事や視点が増えるのをどう考えるか…そこは心配です。

①子どもたちの日本語はどうあるべきなのか? あなたは子どもたちにどんな日本語の力が身につ くことが大事だと思っているだろうか? →それによってA案B案の判断に違いはでるだろうか?

②子どもたちへの日本語指導者の専門性とは? あなたは「子どもたちへの日本語指導」を行う教 師の専門性とは何だと考えただろうか?

→それによってA案B案の判断に違いはでるだろうか?

③教師の「働くこと・仕事」をどう考えるか? あなたは教師の「働き口」や「働き方」をどう考 えているだろうか?

→それによってA案B案の判断に違いはでるだろうか?

論点① 日本語の捉えかた 成長の捉えかたの違い

正確な日本語を個別に丁寧な運用の保障を重視する (正しさ・緻密さ→成長につながる)

日本語自体の厳密さより、 関わりの中での包括的成長 を重視する

(総合性・適切さ→成長につながる)

論点② 子どもへの日本語 指導者に求める専門感覚

言語の知識や教授法への理解,異文化間の関わりへの理解

「学校の仕事」全体への理解, 教科や学力への理解, 子ども理解

論点③ 教師の待遇や 労働環境への視点の違い

日本語教師の待遇向上 学校教師の負担像を防ぐ 学校を外に開く

包括的な成長と日本語指 導の一体化 学校教師の力への信頼

「言語政策を考える」とは? この授業の全体的道筋

その言語が用いられる場所で、どのような言語を用いるか?

言語の規範をどう作るか? 例)正しい日本語か? 適切な日本語か? その規範によってど のような社会がつく られていくのか?

言語規範の社会的影響

その規範によってど のように人は影響を 受けるのか?

言語規範の人への影響

その規範と教師はどのように関わるか。 そのとき、言語教師の専門性や働き方は どうあるべきか?

言語規範の言語教師の専門 性・待遇・働き方に与える 影響

Q1 現代の日本語教育では、言語政策という観点でどのような論点があるのか? どうしていけばいいのだろうか?

Q2 日本では過去、日本語とその教育の政策をどうつくってきたのか?

Q3 世界では、言語とその教育の政策をどのようにつくっているのか?

Q4 現代の日本語教育は、どのように言語政策と言語教育を考えていくべきか?